

語の総合力を養うことができると考えられる。

#### 参考文献

朝日新聞 1月20日 1957.

Dwight D. Eisenhower. *At Ease : Stories I Tell to Friends*. New York : Doubleday, 1963.

Ferris, Robert G. *The Presidents*. Washington D. C. : U. S. Government Printing Service, 1977.

Freidel, Frank. *The Presidents of the United States of America*. Washington D. C. : White House Historical Association, 1987.

川島彪秀・岡部朗一「スピーチ・クリティシズムの研究」青学出版 1978.

Lawrence W. H. "Eisenhower in Second Inaugural Calls upon Country to Sacrifice" *New York Times*. January 22, 1957.

ローガンビル G. ブルース・川島彪秀「英語

音声学－音声・構音・発音」三修社 1983.

*New York Times*. January 19, 1953. p. 1.

*New York Times*. January 21, 1953. pp. 1-3.

*Public Papers of the Presidents of the United States*. January 21, 1957.

Richardson, Elmo. *The Presidency of Dwight D. Eisenhower*. Lawrence : The Regents Press of Kansas, 1979.

Thonssen, Lester A. Craig Baird and Waldo W. Braden. *Speech Criticism*. 2nd ed.

New York : The Ronald Press Co., 1970.

Vexler, Robert I. Ed. *Dwight D. Eisenhower 1890 - 1969*. N. Y. : Oceana Publications Inc. 1977.

ワグナー J. A. ・川島彪秀「現代英語スピーチコミュニケーション概論」学書房 1977.

区切る例が 5 回、12 語で区切る例が 1 回であった。このように 2 語から 3 語の区切りがよく使われていることがわかる。12 語のように語数が多くなると、使われ方はずっと少なくなっている。また、1 語ずつ区切る one word phrasing が 25 回使われており、効果的な強調法となっている。

## 2 間の置き方 (pausing)

この演説では、話題の変わる部分や重要点を述べる前で間を置くことによって、聴衆中心のわかりやすい話し方をしている。さらに、拍手による演説の中断は 2 回あり、演説が感動的であることがわかる。1 回目の拍手があったのは、ハンガリー動乱について述べた後で、約 8 秒間続いた。

Yet the world of International Communism has itself been shaken by a fierce and mighty force : the readiness of men who love freedom to pledge their lives to that love. Through the night of their bondage, the unconquerable will of heroes has struck with the swift sharp thrust of lightening. Budapest is no longer merely the name of a city ; henceforth it is a new and shining symbol of man's yearning to be free.

(Public Papers : 1953 : 62)

2 回目の拍手は、7 秒間続いた。ここでは「自由国家との友好関係を求める」というアメリカの姿勢を示し、主権の大切さを訴えることにより、聞き手の感情を高めていると考えられる。特に、感情的な訴えかけだけでなく、話し手の主張を支える理由を提示することによって、説得力のある展開を見せている。

We cherish our friendship with all nations that are or would be free. We respect, no less, their independence. And when, in time of want or peril, they ask our help, they may honorably receive it ; for we no more seek to buy their sovereignty than we would sell our own. Sovereignty is never bartered among free men. (Public Papers : 1953 : 64)

## Ⅲ 結 論

今回の研究の結果、アイゼンハワー大統領の音声の特徴と演説の展開方法が明らかになった。さらに、以下のような理由で英語の 4 技能を高めるための教材として授業に活用できると思われる。

- (1) アイゼンハワー大統領の発音は、アメリカ英語の典型と言われる一般アメリカ音型なので、その発音の特徴を理解すれば、アメリカ英語が聞きやすくなる。
- (2) 話す速度がゆっくりしているので、英語の聞き取り練習に使うことができる。
- (3) 対句法や繰り返しの技巧を知ることによって、説得力のある文章を書くことができるようになる。
- (4) 音量や話す速度に幅をもたせることの重要性を知れば、英語で意見を述べたり、自分の感情を相手に伝える時に役立つ。
- (5) 効果的な区切りや間の置き方を習得すれば、上手な話し方を学ぶことができる。

実際に行われた演説の原稿と録音テープを使って速読、文章構成法、発音指導、話し方、聞き取りなどの練習を重ねれば、英

語である。川島 (1982 : 162) によれば、レーガン大統領は平均で140語から143語、一番速い時で180語である。こうして比べてみると、アイゼンハワー大統領の話す速さは平均するとルーズベルト大統領と同じくらいで、カーター大統領より速く、レーガン大統領より遅いと言える。話す速さは、話し手の性格や聴衆に対する態度を表すと考えられる。アイゼンハワー大統領の話し方はゆっくりしているので、とても聞きやすく、聴衆中心の姿勢が見られる。また、1分間に話す語数の幅が広い、時間のかけ方に変化があり、巧みな強調につながっている。

### 3 音声変化

アイゼンハワー大統領の声量は豊かで、声が遠くまで届きやすい。力強く、はっきりした発音で、ゆっくりと話しているため、話し手の気持ちが伝わりやすくなっている。また強勢が加わる意味上大切な語句には適切な時間がかけられ、効果的な呼吸法で、音量やピッチに幅をもたせている。さらに、文の最初に同じ表現を繰り返すparallel sentence structureを使い、快いリズムを形成している。

### 4 強調法

アイゼンハワー大統領は対句法 (parallelism) や繰り返し (repetition) を多く使うことによって、自分の主張を強調している。最初の例では “There must be” で始まる文章を繰り返して正義や法律の重要性を述べ、“for without” 以下でそれが存在しない状況を想定することによって、聴衆の共感を得ようとしている。

Yet this peace we seek cannot be born of fear alone : it must be rooted in the lives of nations. There must be justice, sensed and shared by all peoples, for, without justice the world can know only a tense and unstable truce. There must be law, steadily invoked and respected by all nations, for without law, the world promises only such meager justice as the pity of the strong upon the weak. (Public Papers : 1953 : 2)

次の例では、助動詞 “may” で始まる祈願文を繰り返すことによって、現在の分裂状態を懸念する話し手の未来に対する願望が率直に示されている。

So we voice our hope and our belief that we can help to heal this divided world. Thus may the nations cease to live in trembling before the menace of force. Thus may the weight of fear and the weight of arms be taken from the burdened shoulders of mankind. (Public Papers : 1953 : 65)

## II 非音声の要素

### 1 区切り (phrasing)

アイゼンハワー大統領は、区切りを細かく入れ、聞きやすくなるように工夫している。この演説におけるphrasingの主な例を頻度の高い順にあげると以下のとおりである。3語で区切る例が101回、2語で区切る例が84回、6語で区切る例が43回、5語で区切る例が40回、4語で区切る例が29回、1語で区切る例が25回、7語で区切る例が21回、9語で区切る例が11回、8語で区切る例が10回、10語で

## c 反転母音を伴う [ɑ]

これは後ろ母音 [ɑ] に反転母音 [ə] が続く [ɑə] という発音である。この発音は “ar” という綴りに表れている。

Initial Position

artificial

Medial Position

dark      spark      hard

Final Position

far

## d 反転母音を伴う [ɔ]

唇を丸めた後ろ母音 [ɔ] の後に反転母音 [ə] が続く [ɔə] の発音である。発音する時の舌の位置は低く、舌面および唇の筋肉には緊張感がある。この発音は “or” という綴りで示されることが多い。この演説では語頭に来る例はなかった。

Medial Position

born      force      shoresperform      fortress      Northdiscord

Final Position

more      before      restore

## e 強勢の加わる反転母音 [ə]

舌の位置は中ほどで、口は半分開いた状態で舌面および唇の筋肉には緊張感がある。

Initial Position

earth

Medial Position

third      serve      firmpurpose      concerns      burdenaffirms      work

Final Position

stir

## e 強勢の加わらない反転母音 [ə]

舌の位置は中ほどで、口は半分開いた状態である。舌面および唇の筋肉には緊張感がない。舌の位置は強勢の加わる反転母音よりもわずかに低くなる。この演説では語頭に来る例はなかった。

Medial Position

pursue      entered      povertydeserts      others

Final Position

member      never      prosperlabor      counter

## (2) 二重母音

アイゼンハワー大統領の演説では、[ɪə] [eə] [ʊə] のように母音から弱形の反転母音に移動する集中二重母音が聞き取れた。これは一般アメリカ音型の特徴である。

## (3) 子音

アイゼンハワー大統領達は “wh” という綴りの部分は、h 音を入れて [hw] と発音している。wherever, what, why, which, everywhere, whether, elsewhereなどがあげられる。

## 2 話す速さ

アイゼンハワー大統領の話す速度は比較的に遅い方である。この演説では一番遅い時で1分間に102語、一番速い時で146語、平均が126語である。川島及び岡部(1978: 80)によれば、ルーズベルト大統領は平均が95語から110語、一番速い時で125語である。カーター大統領は平均が100語から102語、一番速い時で120

# アイゼンハワー大統領の音声の特徴とその効果

山 上 登美子

## A Study of Phonetic Characteristics and Delivery in President Eisenhower's Speech

Tomiko Yamagami

### I はじめに

本研究では、1957年1月21日に行われたアイゼンハワー大統領の第2次就任演説の展開のしかたについて音声の要素を中心に分析する。まず、音声の要素として母音や二重母音および子音の発音上の特徴、話す速さ、強調法、音声変化を明らかにする。次に、非音声の要素として区切りや間の置き方について調べる。さらに、音声及び非音声の要素が演説全体に与える効果と英語の授業における活用方法を考えたい。

#### 1 音声の要素

アイゼンハワー大統領の発音は明瞭で、力強い話し方は演説をわかりやすく、安心感を感じさせるものとなっている。発音は、反転母音を伴う一般アメリカ音型である。発音表記の方法として国際音標文字 (International Phonetic Alphabet) を使い、以下に具体例をあげる。

##### (1) 母音

###### a 前母音 [æ]

この音を発音する時は口を大きくあけ、

舌面および唇の筋肉に力が入らず、舌の位置は低くなる。ローガンビル及び川島(1983 : 78) によれば、英語ではこの音が語尾 (final position) に来ることはない。この演説では語頭 (initial position) に来る例はなかったので、語の中央 (medial position) に来る例をあげる。

##### Medial Position

<u>f</u> amily	<u>l</u> and	<u>d</u> ams
<u>r</u> anks	<u>s</u> tands	<u>c</u> apture
<u>v</u> alue	<u>p</u> ass	<u>c</u> aptive
<u>p</u> assion		

###### b 後ろ母音 [ɑ]

この音を発音する時は口を大きくあけ、舌面および唇の筋肉に力が入らず、舌の位置は低くなる。ローガンビル及び川島(1983 : 80) によれば、英語ではこの音が語尾に来ることはない。この演説では語頭に来る例がなかったので、語の中央に来る例をあげる。

##### Medial Position

<u>c</u> ommon	<u>c</u> onstant	<u>c</u> onfidence
<u>c</u> onflicts	<u>c</u> ommunism	